

変わる！

大学周辺整備

～キャンパスストリートづくり～

Campus Street

三重大学へは、最寄りの駅である近鉄江戸橋駅から江戸橋を渡り、国道23号線を通って行くんだけど、この「キャンパスストリート」、交通量が多いのに道路が狭く、車と自転車であふれ返ってゴチャゴチャしているんだ。緑も少ないから、「学舎(まなびや)」らしい風情もないし…。



そこで、三重大学、三重県、津市などが一体となって、学園都市にふさわしい景観を備え、かつ安心・安全なキャンパスストリートづくりを検討したんだ。どんな計画か、見てね！

ゾーン別整備方針

A 駅前ゾーン

- 起点・導入部の役割を担うエリアとして、総合的なインフォメーションやモニュメント等を設置する。
- バリアフリーに配慮した自歩道とイベント広場を整備する。
- 駐輪場整備などにより、歩道上駐輪を抑制する。
- 自歩道とイベント広場に四季を感じさせる花木を植栽し、維持管理には地域住民・学生のボランティア活動を導入する。



B 江戸橋ゾーン

- 駅前広場から国道へ誘導する重要な経路であることを意識し、道路全幅での修景(車道部を含めたカラー舗装化など)を行う。
- 電柱の裏配線などにより無電柱化を行う。
- 道路全幅を9.5mとし、北側に自歩道を設ける。
- 歴史と自然を感じるエリアとして、旧街道の歴史と志登茂川等の自然を感じる修景を行う。
- 常夜燈を活かした歴史を感じる休憩所を設け、旧街道や常夜燈に関するインフォメーションを設置する。
- 江戸橋を木橋の雰囲気を残した歴史を感じる橋として整備する。

C 国道ゾーン

- ゆとりを感じるエリアとして、歩行者と自転車の分離、電線・電柱の地中化、信号柱・標識・照明灯等の統合整理を行い、広がりのある空間づくりを行う。
- バス待合所のスペースを確保し、休憩と交流空間をつくる。
- 歩行者と自転車を分離した自歩道の整備、電線・電柱の地中化を行う。
- バリアフリーに配慮した自歩道等を整備する。
- バス待合所や自歩道の一定間隔にストーリー性のあるインフォメーションや案内標識を設置する。
- 歩道部に花木植栽を行い、歩行者に癒しと季節感を提供するとともに、維持管理には地域住民・学生のボランティア活動を導入する。



D 大学前ゾーン

- 大学の雰囲気を感じるエリアとして、自歩道に他ゾーンとは異なった落ち着いた色彩を採用する。
- 大学正門と市道を一体として修景整備し、大学のメインゲートを思わせる雰囲気づくりをする。
- 国道23号との交差点に、大学正門前の雰囲気をイメージしたモニュメント等を設置する。
- 南側に歩行者と自転車を分離した自歩道を設ける。
- バリアフリーに配慮した自歩道を整備する。

整備方針

1) キャンパスストリートの「趣」と交流空間づくり

- 舗装や道路付属物の色彩・デザインの統一や工夫により、キャンパスストリートの雰囲気づくりを行うとともに、歩行者と自転車の動線を明確にする。
- 屋外広告物の色、デザイン、大きさの基準を示すことにより、キャンパスストリートの雰囲気づくりを進める。
- 学生と地域の人びとが交流を深めることのできるような、広場やポケットパークの整備と、バス待合所の充実を図る。

2) 安全で安心な空間づくり

- 歩行者、自転車、自動車を原則的に分離するとともに、バリアフリーに配慮した歩道や広場、ポケットパークを整備する。
- ストーリー性のあるインフォメーションや案内標識、サインを設置する。
- 連続性を持たせた視覚障害誘導用ブロックを配置する。

3) 歴史と花木の空間づくり

- 旧街道の歴史に触れることができるよう、歴史的なデザインの採用や、歴史的資源を活かした休憩場所とインフォメーションの設置を行う。
- 心と体を癒し、四季を感じる花木を植栽する。維持管理には、地域住民・学生のボランティア活動を導入する。

現状と課題

(三重大学周辺幹線道路景観検討委員会 渡邊理事・工学研究科建築学専攻浅野研究室【浅野助教・土屋尊司・福田剛史・堀内勇輔・渡辺亨】調査)

えっくすくんから見た現在の「キャンパスストリート」



えっくす 案内標識がないから行き方がわからないね



えっくす 車がたくさん通るのに道路が狭いなあ

くす 歩道がないのも危ないね



えっくす ゴチャゴチャしていて緑風景だね

くす 緑がほとんどないのになあ



えっくす 三重大学がどこにあるのかわからないなあ

くす 大学らしい風情がなくて寂しい感じだね

A 駅前ゾーン

- 歩道部の舗装がアスファルトで味気ないので、緑が少なく殺風景。
- 自転車が歩道部にはみ出し、歩行に支障をきたしている。
- インフォメーションや案内標識がないので、三重大学や大学病院への道順がわからない。
- 歩道に段差があり、バリアフリー対応となっていない。

B 江戸橋ゾーン

- 歩道がないうえ学生の通行量(歩行者および自転車)が非常に多いため、歩行者、自転車、自動車が錯綜し、危険な状態である。
- 案内標識がないので道順がわからない。
- 電柱や電線により、貴重な歴史的資源である常夜燈や江戸橋の歴史的な景観を損ねている。

C 国道ゾーン

- 氾濫する屋外広告物、塗装が劣化した横断歩道橋や老朽化したバス停留所等、景観を損ねる要素が多数ある。
- 自転車が通行できる歩道幅が確保されていないため、自転車が通行量の非常に多い車道を走らざるを得ず、危険な状態である。
- 視覚障害者誘導用ブロックが連続的に設置されていない。
- 病院利用者や高齢者、身体障害者の休憩場所がない。
- 歩行者用案内標識がなく、三重大学や大学病院の方向がわからない。
- 緑が少なく、快適性が不足している。

D 大学前ゾーン

- 国道23号交差点に三重大学正門をアピールするものがない。もっと大学らしい趣とにぎわいのある雰囲気が必要。
- 学生はもとより車の出入りも激しい。歩行者と自転車および自動車が錯綜する状態となっている。
- 緑が少なく、大学内の緑との統一感がない。

基本方針

- キャンパスストリートの「趣」を感じ、学生と地域の人びとが交流を深める **空間づくり**
- 人に優しくわかりやすい、安全で **安心な空間づくり**
- 旧街道の歴史や四季を感じる花木に **触れる空間づくり**

三重大学周辺幹線道路景観検討委員会とは

三重大学周辺の幹線道路を、学園都市にふさわしい景観を備えた、また通学路等としての安全性を確保したものとすため、その整備の方針と計画について検討することを目的に、関係する施設の管理者によって結成されたもの。事務局は三重県津建設事務所に設置されています。

メンバー

- 三重大学 ● 近畿日本鉄道 ● 国土交通省
- 津市 ● 三重県